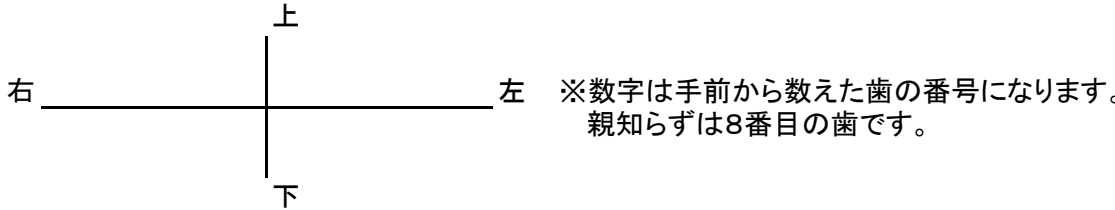


抜歯説明書

1. 病名 齲蝕(虫歯) 慢性歯周炎 根尖性歯周炎 歯牙破折 不働歯 智歯周囲炎
 埋伏智歯 水平埋伏智歯

2. 手術名 抜歯術



3. 必要性について

- 虫歯や歯周病など感染による炎症によって、腫れや痛みが生じる可能性があるため
 歯並びや噛み合わせに影響を及ぼす可能性があるため

4. 方法

- 局所麻酔下に行います
 歯肉を切開し、剥離します
 埋伏歯(埋まっている歯)の周囲にある骨を削除します
 エアータービンやエンジンを使用して歯を分割します
 挺子や鉗子を使用して歯を抜きます
 切開した歯肉を縫合します

5. 合併症と術後の障害

- 痛み: 術後2~5日出現するため、消炎鎮痛剤を投与しコントロールします。
 腫れ: 術後2日目にピークを迎え、約5~7日程度で消退します。また、腫れに伴い口が開きにくくなることがあります。
 出血: 術後約1週間は唾液に血が混じります。特に抗凝固剤や抗血小板薬を服用されている方は出血が多いことがあります。自己判断で服用を中止しないでください。うがいをし過ぎると血餅(かさぶた)が脱落して疼痛が継続することあります。(ドライソケット) その際には抗菌薬軟膏ガーゼの挿入で徐々に落ち着きます。
 内出血: 頬や顎下に内出血が出現することがあります。紫色から黄色に変化して約2週間で消退します。
 下歯槽神経および舌神経障害: 下顎の歯牙と各神経は近接しており、抜歯に伴って舌、下唇、下顎の知覚障害がまれに出現することがあります。ビタミンB12製剤の内服によりほとんどの場合回復しますが、極まれに後遺することがあります。
 上顎洞への穿孔: 上顎の歯牙と上顎洞は近接しており、術後に抜歯窩(抜歯した穴)と上顎洞が交通する可能性があります。鼻出血や鼻から空気、水が漏れるような症状が出現します。交通した際には、歯肉を縫合して閉鎖しますが、まれに数週間後再発して追加手術が必要になることがあります。
 感染: 細菌感染により痛みや腫れが増強することがあります。その際は抗菌薬の投与や追加処置が必要となります。
 発熱: まれに発熱することがあります。消炎鎮痛剤の服用で解熱しますが、なるべく安静を保ってください。

後藤歯科医院 院長殿

上記の説明を受け、その内容を理解したうえで手術を受けることに同意します。

平成 年 月 日

患者署名

代理人署名

(続柄)